

教員名	安田 次郎 (YASUDA Tsuguo)
所 属	文教育学部人文科学科比較歴史学講座
学 位	博士 (文学) (2002 東京大学)
職 名	教授
URL / E-mail	<a href="http://www.li.ocha.ac.jp/hum/yasuda.htm">http://www.li.ocha.ac.jp/hum/yasuda.htm</a> / yasu5178@cc.ocha.ac.jp

## ◆研究キーワード

南北朝 / 室町 / 荘園 / 都市 / 民衆

## ◆主要業績

・『福智院家文書 第二』(続群書類従完成会)

## ◆研究内容

1 興福寺旧蔵史料の研究。とくに「福智院家文書」の解説と研究、そしてそれを史料集として公刊するための調査・研究を進めた。興福寺や春日社の組織や所領支配のありかたの研究、文書様式についての調査があらためて必要であった。

2 南北朝期についての研究。南北朝の動乱は、日本の中世を前後にわかつ大きな画期である。この期間について、従来のような政治史的観点からではなく、社会史的な観点からどのような歴史叙述が可能かについて考えた。

3 いくつか具体的なモノについて研究した。たとえば、興福寺国宝の仏頭、初期の宝篋印塔など。

## ◆教育内容

1 入学したばかりの学生を対象として、史料読解や解釈の具体的な方法について、基本的な手ほどきを行った。あわせて、生の史料からどのようにしてある特定の歴史像が構成されてくるのかを講じた。学生の疑問をすくい上げ、また各自の意見を積極的に発表させることに留意した。

2 南北朝期に関する重要な先行研究を紹介してその問題点について講じた。聴講学生の多くは卒業論文作成をひかえているので、学術論文がどのように構想されて書き上げられてくるのかについても言及した。

3 中世の僧侶の記録を取り上げて精読し、具体的な個々の記事をどう解釈して歴史叙述にまでつなげていくかについて、実戦的な演習を行った。

4 卒論、修論指導を行った。

## ◆共同研究例

---

福智院家文書の研究

## ◆共同研究可能テーマ

---

- ・ 荘園
- ・ 祭礼
- ・ 寺社

## ◆将来の研究計画・研究の展望

---

興福寺旧蔵史料の紹介、活字化が進めば、武家・公家を中心に構成されてきた日本の中世史像が大きく変わる可能性がある。寺社の側からみた歴史という視点に立てば、比叡山の史料が乏しいだけに、南都の史料はきわめて貴重である。引き続き重要史料の収集と分析を行っていきたい。そのような基礎作業を通じて、中世社会における寺社の位置がいつそう明らかになり、中世社会像はよりバランスがとれて具体的なものとなるだろう

## ◆受験生等へのメッセージ

---

じっくりと史料を読んで歴史について考えたいと思っている受験生、歓迎します。